

コムシティ再生のあり方検討会 中間報告 【概要】

1 本検討会の検討にあたっての考え方と検討経過

(1) 検討にあたっての考え方

コムシティ単独の再生という視点のみならず、北九州市全体や黒崎地区全体の活性化という視点により議論する。

市民が納得できる、一定の方向性を提言する。

北九州市の基本構想等、市のまちづくりに関する計画などを配慮して検討する。

(2) 検討経過

今年3月25日に第1回会議を開催し、これまでに4回開催した。

(3/25、4/8、4/27、5/18。4/8には現地視察を実施)

2 再生に向けた基本認識

(1) 情報発信拠点への再生

市全体の活性化につながり、ポジティブに情報発信できるコンセプトが望まれる。

(2) 複合型施設への再生

低成長経済、少子高齢化・人口減少といった時代背景、さらに、施設規模の大きさを踏まえれば、商業に特化しない複合型施設への再生が現実的である。

(3) 交通ターミナル機能を活かした再生

コムシティの立地特性は、電車やバスなどの人が自然に集まる交通ターミナル機能を有していることにある。再生にあたっては、この機能を活かしたものにすべきである。

(4) 早期再生の実現

コムシティは、北九州市及び黒崎地区のまちづくりとの関連で、その再生に対する市民の期待が高いため、早期に再生する必要がある。

3 再生の方向性

(1) 再生にあたっての考え方

再生にあたっては、大きく2つの考え方がある。

本市西部地域からポジティブに情報発信する「市民全体のための施設」

= 小倉都心との機能分担（差別化）を明確にし、この地域から積極的に情報発信できる機能を中核とした再生

例 ・次世代人づくり支援拠点機能：子育て、教育、生涯学習、就労、起業、など

・広域行政サービス機能：国県市の総合的行政サービス（税、健康保険、年金、雇用、など）

本市西部地域の暮らしを総合的に支援する「地域住民のための施設」

= 地域住民の利便性向上を図ることを中核機能とし、職住接近の恵まれた環境を活かした、地域住民の総合的な生活支援施設への再生

例 ・総合的生活支援拠点機能：福祉・医療、NPO等の交流拠点、区のワンストップサービス、など

（２）再生の方向性

再生の大きな方向性としては、商業に特化しない複合型施設を目指すべきである。

その際、上記、のいずれの方向に重きを置くべきかについては、現時点で結論に至っていないが、新生「コムシティ」を特徴づけるコンセプトが必要である。

このため、前記の基本認識に立ち、求められる各機能の必要性、緊急性、実現可能性を配慮した上で、短期的・中長期的な時間軸を踏まえたコンセプトづくりや中核施設について引き続き検討する。

4 留意すべき事項

併せて、次のような事項についても、留意する。

建物などの改修

コムシティへのアクセス（車、人）や建物内の動線については、コムシティの機能が十分発揮できるような改修・改善が必要である。

商業機能

商業機能を中核とはしないものの、にぎわいづくりに資する業種や、交通ターミナルの利用者や市民の利便性向上に資するような業種の導入については、配慮する必要がある。

公共公益的機能

人が集まりやすい立地特性を最大限に活かし、市民の利益や住民の利便性向上につながる公共公益的機能の導入が望まれる。

5 今後の取り組み

今後、検討会では、次のような事項を中心に議論を深め、8月上旬を目途に、最終報告をとりまとめていく。

コンセプトと具体的な施設内容・施設構成

建物などの改修

商業機能について

その他コムシティの魅力づくりに関すること